

北大病院薬剤部 NEWS

薬剤部 広報誌担当 (内線5683) Vol. 38 (2013年6月26日発行)

便秘になりやすい薬剤／下剤について

便秘とは、糞便が長時間腸管内にとどまり、水分含有量が低下することで硬さを増し、排便に困難をきたす状態を指します。便秘は引き起こされる要因によって以下の4つの分類に分けられます。



- ◆ 腸管の運動機能低下や過剰緊張で起こる「**機能的便秘**」
- ◆ 腸管そのものに問題があることで起こる「**器質的便秘**」
- ◆ 他の疾患が原因で、その付随症状として起こる「**症候性便秘**」
- ◆ 治療のために用いられた薬剤によって引き起こされる「**薬剤性便秘**」

今回はこのうち「**薬剤性便秘**」についてお話します。薬剤性便秘は、麻薬や抗うつ薬、鉄剤などの便秘を起こしやすい薬剤が関係しています。代表的なものとしては抗コリン作用を示す薬剤があり、鎮痙薬として使用されるブチルスコポラミンや睡眠導入剤のベンゾジアゼピン系薬物、また麻薬性鎮痛薬のモルヒネやオキシドロンなどがこれに該当します。一方で、抗コリン作用とは別の機序で便秘症状を引き起こす薬剤も存在し、それらの全てを把握することは大変難しいことだと思います。表1に便秘を起こしやすい代表的な薬剤を紹介します。

表1. 便秘をおこしやすい薬剤 (じほう「薬剤師に必要な患者ケアの知識」改変)

麻薬性鎮痛薬 モルヒネ(MSコンチン®、オプソ®内服液 など) オキシドロン塩酸塩 (オキシコンチン®, オキノーム®散)	腸管神経叢におけるアセチルコリン遊離抑制及び腸管平滑筋におけるセロトニン遊離促進により腸管の蠕動運動を抑制し、腸管内容物の移送を遅延させることで便秘を引き起こす。
抗コリン薬 ブチルスコポラミン臭化物(ブスコパン®) ベンゾジアゼピン系睡眠薬・抗不安薬 エチゾラム(デパス®)、トリアゾラム(ハルシオン®)、フルニトラゼパム(ロヒプノール®) など	抗コリン作用により、消化管の緊張を低下させ蠕動運動を抑制することで便秘を引き起こす。
鉄剤 フマル酸第一鉄(フェルム®) など	胃内で遊離した鉄イオンが直接胃腸粘膜を刺激し、収斂作用を示すことで便秘を引き起こす。
吸着剤・イオン交換樹脂 沈降炭酸カルシウム(カルタン®) セベラマー塩酸塩(レナジェル®) ポリスチレンスルホン酸Ca(カリメート®散) ポリスチレンスルホン酸Na(ケイサルト®散)	不溶性・非吸収性のため、排泄が遅延した際に腸管内に蓄積し、蠕動運動の阻害及び腸管内容物の移送遅延によって便秘を引き起こす。重篤な副作用として腸管穿孔、腸閉塞を誘発するため注意が必要。
5-HT₃拮抗薬 ラモセトロン(ナゼア®)、パロノセトロン(アロキン®)、グラニセトロン(カイトリル®) など	5-HT ₃ 受容体拮抗作用により消化管運動を抑制し、腸管内容物の移送を遅延させることで便秘を引き起こす。

便秘治療薬にはたくさんの種類があり、習慣性があるもの、検査前処置薬として使用するもの、また腎障害者や妊婦といった特定の患者さんに使用する際に注意を要するものなど、その特徴は様々です。そのため、各々の薬剤の特徴を把握し選択することは、適切な薬物治療を行う上で大変重要なことと考えられます。各便秘治療薬について、その種類・特徴を(院内採用薬を中心に)表2に示しましたので参考にしてください。

表2. 当院採用の代表的な便秘治療薬

種類	一般名(商品名)	効果発現時間	特徴
塩類	酸化マグネシウム (マグラックス®)	8~10時間	* 習慣性がなく、長期投与も可能 * 大量の水分と共に服用するとより効果的 * 腎障害者では高Mg血症に注意
	ラクツロース (リフォロース®)	40~96時間	* 肝性脳症、産婦人科術後、小児の便秘に使用
刺激性	センノシド(プルゼニド®) センナ(アローゼン®)	8~12時間	* 長期連用により耐性が生じ、効果減弱
	ピコスルファートNa (ピコスルファートナトリウム®内服液)	6~12時間	* 習慣性がなく、妊婦にも使用可 * 大腸検査の前処置には20mL(150mg)と大量に使用
	炭酸水素ナトリウム・無水リン酸二水和物 (インカルボン®坐剤)	10~30分	* 生理的排便に近く、小児・妊婦にも使用可能
	ピサコジル (テレミンソフト®坐剤)	15~60分	* 10mg(成人用)と2mg(乳幼児用)の規格あり * 妊婦には投与しないことが望ましい
浣腸剤	グリセリン (グリセリン®浣腸)	直ちに	* 連用により耐性増大 * 妊婦には投与しないことが望ましい
自立神経作用薬	パンテチン (パントシン®散)	10~20時間	* ときに交感神経刺激に伴う副作用として唾液分泌、発汗、嘔気が出現

2012年11月には従来のものとは異なる、新しい作用機序の慢性便秘症治療薬ルビプロストン(アミティーザカプセル*)が発売されました。ルビプロストンは腸管上皮のCIC-2クロライドチャネルを活性化、腸管内への水分分泌を促進し、便を軟化させることで便秘を改善します。また、長期にわたり効果が持続し、長期使用が可能な薬剤であることが確認されています。新薬の登場により選択の幅は広がりましたが、全く新しい作用機序の薬剤であることから、今後効果に加えて副作用もモニタリングしていく必要があります。(※2013年6月時点では、アミティーザカプセルは院内専用薬として採用)

Staff Interview

熊谷 卓博



薬剤師2年目の熊谷です。現在は調剤室(内線5685)に配属されており、院内及び 外来患者さんの内服薬や外用薬の調剤を行っています。日々の業務の中で得られるものは数知れませんが、先輩方から学ぶことで薬剤師として、そして人としても成長していければと思います。